

令和4年11月21日
岐阜県立大垣工業高等学校長

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度 岐阜県立大垣工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月8日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 協議会会場 大垣工業高等学校 本館1階 会議室
授業参観 南舎4階および3階 普通教室
- 4 参加者
会長 小塚 生開 共立紡機株式会社 代表取締役
副会長 萩永 秀樹 育友会会長
委員 長瀬 ちえ子 大垣夢ある女性の会 事務部長
浅野 康博 イビデン株式会社 経営企画本部人事部長
宮下 友紀子 育友会3年学年代表
多賀 英昭 太平洋工業株式会社 品質保証部
片桐 実智 地域代表
大石 玉穂 (財)岐阜県立大垣工業高等学校同窓会事務局

学校側 桐山 明宏 校長
土田 公成 副校長
樋口 高広 教頭
田邊 勝敏 教頭
木村 章太 生徒指導主事
服部 明広 進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和4年度外部評価アンケートについて(全日制・定時制)

意見1: アンケートの結果が令和元年と現在のものとは大きく違うが、指導自体大きな変化があったのか。

⇒マナー指導、身だしなみ指導、挨拶指導など、かける時間は増えているが、現在の方法では伝わり方が低い可能性がある。

⇒令和2年度までは抽出アンケートであったが、令和3年度から全員にアンケートを取る形に変更となった。また、全校集会ができず、全校放送での全体指導となり指導の伝わり方が変わっている。

⇒学習意欲の低下、部活動の任意加入、資格等の取得率の低下なども影響していると思われる。また、この企業に進みたいという強い思いを持つ生徒が減少しているよう

- に感じられる。アンケートのモラルやマナーが認識できていないのかもしれない。
- 意見2：アンケートは記名式なのか、また回収率はどうか。
⇒2年前までは調査対象を抽出で行っていたが、昨年度よりアンケートの方法を変え、生徒、保護者全員を対象に調査するように切り替えた。無記名式でほぼ全員に回答をいただいている。
⇒以前は抽出していたため、限られた保護者に手渡ししていたため、良い数字が出ている可能性がある。
- 意見3：アンケートの質問事項は変えているか。質問事項は変えず、数年かけて変化が確認できる調査項目を設定しておく必要がある。
⇒アンケートの質問内容は変えずに実施していく。

(2) 全日制の現状と課題について

・教務部関係

- 意見1：先生から生の声でICTは苦手と言っているのか。
⇒直接、苦手とは表現していないが、活用するかどうかの行動の違いに差が出ている。昔に比べて、若手教員とベテラン教員との壁がなくなり、助言や補助を求めやすい環境になっており、徐々にICTの活用は進んでいる。
- 意見2：自己啓発の時間を作り、研修などの時間を設定できると良い。
⇒教員がプレゼンを使い提示することは、すでにほとんどの教員ができる状況にある。本日見学していただいた生徒1タブレットを使用しての活用形態は更に上の活用法であり、そこで大きなハードルがあると考えている。
- 意見3：教師PCの画面で各生徒の回答状況が確認できると効率の良い授業が展開できると思われるので先生方には是非頑張ってもらいたい。
⇒使うことが目的にならないように注意し、学力の補償につなげる使い方を課題と認識している。教員の習熟、生徒の活用、学力の向上の検証をして進めていく。
- 意見4：授業の中で、タブレットを使用するだけでなくノートも取っていたが、とても大切な事である。社会ではパソコンは当たり前前に操作できることが求められるので、それをふまえて活用して欲しい。
- 意見5：ICT機器を使った授業については、復習のしやすさの面、適する科目を見極めて導入すると良い。
- 意見6：工業高校に何を求めて入学してきたか明確になっていない生徒には学びの目的や目標を見出せるよう指導して欲しい。話が出来るコミュニケーション力を身に付けて社会に送りだして欲しい。
- 意見7：学校に目的や目標づくりを求めるだけでなく、家庭が連携して働きかけなければならない。

・生徒指導関係

- 意見1：今の1年生はZ世代の中の生徒であり、携帯電話やスマホなどを使いこなせるが、コミュニケーションが上手でなく、得意なことには能力を発揮するが、それ以外のことについては向き合えない子が多くみられる。学力は良いがコミュニケーションができず、会社を辞めていく社員がいる。
- 意見2：挨拶から始まるマナー教育ができていない新入社員が見られる中、大垣工業の生徒は挨拶を自発的にしてくれるので、その点は安心している。褒めて伸ばせるような指導もある。
- 意見3：目標を持つと言っても何が目標になるのかもわからない世代と考え、いろいろな話を聞かせることが求められる。また会話を繰り返し交わすことで、社会に出てから人に伝え

ることの練習にもつながる。

⇒ 教員に助言の内容を伝え、指導に生かす。

・進路指導部関係

意見1：進路指導面の課題については、生徒指導で話した内容とリンクしている。どんな目標を持っているか、また、先生や保護者とのコミュニケーションがとれているかが鍵となっているので、学校と家庭と連携して対応してほしい。

意見2：生徒に、何で食べていくか考えさせると自ずと勉強の必要性を感じるはずである。今後の人生設計について問う話を聞かせると良い。若者に対して熱い言葉を語りかけられる教師が必要ではないか。高校生の時は聞き入れられなくても、歳を重ねるうちに理解できるはずである。

意見3：多くの生徒が就職するので、高校3年生は勝負の期間。最初の1年で目標を植え付け、2年目と3年目で基本マナーとコミュニケーション力を見に付けて社会に送り出してほしい。

(3) 定時制の現状と課題について

意見1：就職意欲についてはどうか。

⇒アルバイトでそこそこの給料が得られているため、長期的な視野での労働意識がなかなか育っていない。

意見2：どんな仕事がしたいという視点ではなく、どんな生き方をしたいかを考えさせるアプローチもあるのではないかな。

意見3：生きていくための苦勞をしていない生徒が多く、なかなか難しいとは思いますが、将来に対する不安を感じていない生徒には何のために工業高校に来ているのかを考えさせ、目を開かせてほしい。

意見4：企業ではライフプラン研修というものがある。人生設計について考えさせる場面を作ってはどうか。

⇒家庭科の授業の中に、取り組む内容となっており、全日制・定時制とも実施している。定時制については特に時間をかけて行っている。

(4) 全体を通して

意見1：生徒にとって卒業生の言葉はすんなり入っていくので、そのような先輩から話を聞く機会を設けていただけると良い。

⇒毎年、すべての学科において卒業3年目程度の卒業生を招き、3年生に対して「先輩と語る会」を開催している。

意見2：世の中のイベントなど、集合形式のものも増えてきている。学校の行事においてもコロナ対応の制限を緩めて、学校全体でコミュニケーションを取れる行事を検討しても良いのではないかな。

意見3：購買部で購入する生徒の中には大量に購入している生徒がいる。半面、本当に必要な分のみを購入する生徒もいる。お金の使い方、購入時に挨拶するかどうかは保護者の様子を見て育っていると思われる。マナーは親の躰だが、先生からの助言も必要。

(5) 第3回の開催予定日の学校運営協議会の日取りについての確認

6 会議のまとめ

- ・生徒保護者へのアンケート調査は同じ項目での継続調査をすることで変化を見る。
- ・ICTを活用しての授業については、科目の特性や学習の利便性、復習面も検討した上で取

り入れ方を研究していく。

- ICTの教員のスキルアップは、全体研修ではなく、可否を調査し支援体制を整えて進める。
- 教員からの語りかけや講演会などの場を設け、学びの目的や目標を見出せるように働きかける。また、どんな生き方をしたいかを考えさせていく。
- コミュニケーション力の必要性について、生徒へ継続指導を行う。
- コロナに対応した学校行事の在り方について、社会情勢などもふまえて検討をする。
- 助言の内容について教員に周知し、これらをふまえて指導にあたる。